

ウルトラ建設探訪記

vol. 10

『ウルトラセブン』に見る高度成長期の建造物

『ウルトラセブン』第43話「第四惑星の悪夢」



『ウルトラセブン』55周年記念サイト <https://seven55th.m-78.jp/>

©円谷プロ

あの時の**未来**

「超高層時代」の端緒

「地震大国日本で超高層建築を建てることは不可能」と言われていたなかで、超高層ビルの嚆矢となる霞が関ビル（地上36階・高さ147m）が建設されたのが、『ウルトラセブン』放映中の1968年。これを皮切りとして、各所に次々と超高層ビルが建設されることになる。こうした初期の超高層建築を手掛けた鹿島建設は、霞が関ビルの完成と同じ1968年、東京・元赤坂に18階建ての本社ビルを新築。2008年にビルを下から解体する「鹿島カットアンドダウン工法[®]」で解体されるまで、拠点として長く機能した。



提供：鹿島建設株

セブンの見た街、共生の未来

『ウルトラセブン』第43話「第四惑星の悪夢」は、宇宙ロケットのテスト飛行でたどり着いた地球によく似た星で、モロボシ・ダンとソガ隊員が恐ろしい体験をする…というエピソード。異世界の象徴として当時珍しかった超高層ビルが登場、作中ではそこで人間そっくりなロボットが人間を虐げ、支配していた。高度な科学技術の発達の結果、支配される側の立場として機械文明と“共生”することとなった第四惑星の人間たちの姿を通して、科学への過度な依存に対する疑問が投げかけられる内容となっている。

ロケ地の現在の姿や作品に映る建造物を追いかける巡礼散歩へGO!!
55年前の「未来」、そしてその「現在」を動画で紹介します。



動画のナビゲーターは
モロボシ・ダン役の森次晃嗣さん。
二次元コードからぜひご覧ください。



<https://www.youtube.com/@user-qj6md4nz9e>